



井上日出巳 議員
(創政会)

問 樹木や雑草、ごみなどの問題

樹木や雑草、ごみなどがはなはだしく敷地の外、特に道路にはみ出しているのを見かけるが、こうした問題は、交通や防犯、衛生面など市民の暮らしにさまざまな悪影響を及ぼす。こうした問題で市民が頼れるのは行政だけ。適切な是正指導は行われているのか。

答 問題解決の方策を調査・研究していく

枝木などが敷地から越境していても、所有者または排出者の承諾を得なければ、市が剪定や撤去をすることはできず、対応に苦慮している。引き続き、所有者などに対して粘り強く指導しながら、他の自治体の対応事例や問題解決の方策を調査・研究していく。

問 子どもの安全対策

新潟県や岡山県などの女子児童の痛ましい事件は対岸の火事ではない。当市における不審者から声をかけられたり、追いかけられたりなど危険な目に合った子どもの事例は。地域ぐるみの安全対策が必要であるが、事件を受けて子どもの安全対策を強化されたのか。

答 地域などとの連携を強化し対策に努める

29年の不審者の事例は、学校からの報告では、声かけ事案が6件、不審物所持者の目撃情報が1件であった。今回の事件を受けて、各学校に防犯体制と不審者対応マニュアルの見直しを指導した。今後も、地域などとの連携を強化し、安全対策に努めていく。



石原富子 議員
(開白会)

問 民泊スタート、市の対応は

住宅宿泊事業法が施行され、全国的に民泊が解禁になった。国・県の方針に沿って推進していく当市にも観光客が来る日は近い。騒音・マナー・ごみ放置など近隣住民とのトラブルも問題になっていることから、市独自の対応マニュアルを作るべきではないか。

答 県と連携しながら対応していく

今後の民泊事業の動向を注視し、運用状況に応じて必要な措置を実行するように県に要望していく。実際に騒音やごみ放置などの問題が発生した場合は、市から直接改善指導を行う。市独自の対応マニュアルについては、先進自治体の事例を参考に研究していく。

問 ネット利用宣言の活用と定着は

オンラインゲームやSNSなど、子どもたちを取り巻くネット情報は多様化しており、それだけに危険性もある。性犯罪も多発し、被害も低年齢化している。ネットいじめも懸念される。保護者や子どもたちの意見で作られた「ネット利用宣言」の活用と定着の考えは。

答 情報モラル教育などを通じて活用を図る

全児童生徒の家庭に「ネット利用宣言」を配布し、学級懇談会などの機会に説明するよう各学校に指導した。子どもたちが高い規範意識をもち、インターネットを利用できるよう、今後も情報モラル教育などを通じて「ネット利用宣言」の活用と定着を図っていく。

